

# 雨月物語

国語班

北田麻衣 末永毬菜 丁由爾

## 1. はじめに

私たちは古典文学を研究するにあたって、怪異小説（怪談話）に興味を持ち雨月物語を調べることにしました。

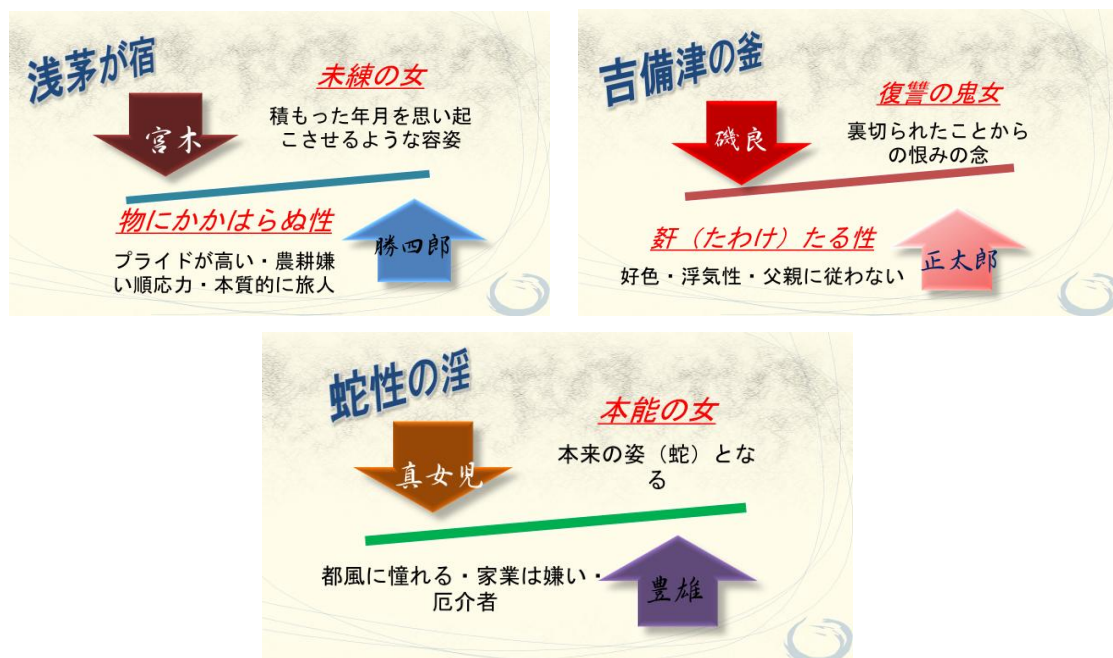
「夫婦や恋人の男女の仲を描いた編の中に現代にも通じるものがある」という仮説を最初にたて、それについて深く掘り下げ、調べていきました。

## 2. 研究の過程

- (1) 雨月物語を熟読し、内容を把握・理解、また先行研究を調べる。
- (2) 各編の登場人物の性格・行動・心情、時代背景を分析し考察する。
- (3) 分析した結果をもとに現代にも通じるものを思案する。

## 3. 各編の登場人物とその人物像

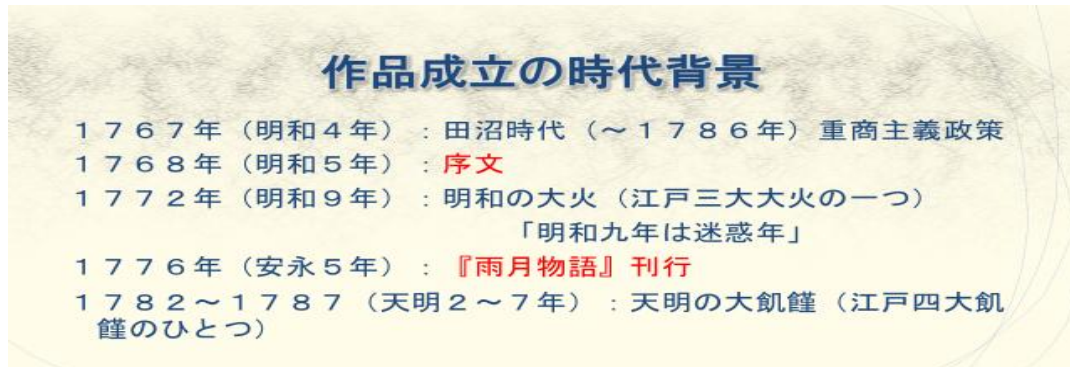
三編の女性たちには「愛情」「執着」「変貌」の三点が共通点としてあげられる。その一方で男性は何かしらの欠点を抱えた人物として描かれている。



#### 4. 作品成立の時代背景

江戸時代、老中田沼意次の重商主義政策により数々の改革がおこなわれた間、多くの天災や飢饉が多く起こった。飢饉に伴い米価は高騰、田沼らが飢饉への対応に失敗したことも相まって、地方では百姓一揆が相次ぐこととなった。

上田秋成が雨月物語を現した時代は、そのような、民衆の不安や不満が高まっていた時期だったといえる。



#### 5. 考察

分析の結果、女性像に共通することは、「愛情」「執着」「変貌」の三点であると考えた。また、登場する人物において、男は目につきやすい人間の欠点を表し、女は目に見えにくい奥底に秘めた愛情を表していると考えられる。その背景としては、当時の飢饉で暗い時代に、人間の本質を女と男にそれぞれ投影させたのではないかと推察した。「人間」は、他人の目を通して下される評価がどうであろうと、誰もが内面に揺るぎないものを秘めているという考えは時代を跨いで通用するものであり、上田秋成が江戸の暗い世相下で人々に訴えようとした「人間の实態・本質」と呼ぶべきものなのではないかと想像した。

#### 6. まとめ

人間の本质を男と女にそれぞれ投影させたと推察し、作品成立の時代背景も踏まえて人間の本质は昔も今も変わらないという考えに至った。

#### 7. 参考文献

- 青木正次 雨月物語 (講談社学術文庫) 全訳注 1981年  
井上泰至 雨月物語の世界 上田秋成の怪異の正体 (角川選書、角川学芸出版)  
2009年